

YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

Rotary
横浜旭ロータリークラブ



UNITE
FOR
GOOD

よいことのために手を取りあおう

2025-26年度 RI 会長／フランチェスコ・アレツォ
RI.D2590ガバナー／大塚 正一
横浜旭RC会長／五十嵐 正



ガールスカウトとクリーン作戦



第12回 チャリティコンサート



防災先進国イタリアに学ぶ講演会開催

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区万騎が原33／〒241-0836
TEL.080-1215-6668／FAX.045-362-0024
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 二俣川駅ジョイナステラス3／4Fコミュニティサロン
例会日 月3回水曜日／12時30分～1時30分

2025 年 8 月 27 日 第 2 5 8 9 回 例 会 VOL.57 No.6

■司 会 SAA 北澤 正浩

■開会点鐘 会長 五十嵐 正

■斉 唱 5階会議室の為斉唱なし

■出席報告

会員数	20名	本日の出席数	15名
本日の出席率	89.47%	修正出席率	89.47%

■本日の欠席者

中谷、宋、二宮、草柳

■他クラブ出席者 五十嵐、関口（地区）

■誕生日祝い 福村会員 7.15



■会長報告

五十嵐 正

皆さま、こんにちは。

先週は大塚ガバナー公式訪問にご出席いただき、誠にありがとうございました。その際、私から地区の災害時の備えについ

て、いくつか提案をさせていただきました。その後ガバナーから正式に回答をいただきましたので、本日はその内容をご報告し、併せて今後の可能性について皆さまと共有したいと思います。

私がガバナーにお伝えしたのは、大きく二つの観点、それは被災直後と事前準備の2つです。

第一の、被災発生直後の行動指針について。具体的には、被災地区では当面の奉仕活動は行わず、各自の救済に尽力する。ただ地区として次の2点だけ地区 HP に掲載する。

①緊急災害支援用口座の開設

②クラブ間でニーズとリソースをつなぐ「クラブ間マッチングサイト」の開設以上の2点を地区 HP に開設するというものです。

第二は、その事前準備として

① 他地区との「災害時相互支援協定」を結び、発災後1～2か月間、被災地区に代わって情報整理や支援を担える体制をつくること。

これは皆様ご存知の岩沼との災害時相互支援の地区版です。

② 地区内の災害支援基金をより充実させること。

これは地区にはすでに地区活動基金として、5,000 万用意されており、これの充実です。

京都・兵庫地区の災害対策基金をご紹介します。

このような 4 点の内容をお話しました。これに対して、大塚ガバナーから翌日次のようなお返事をいただきました。

マッチングサイトについては、「マッチングサイトのロータリー版を作る」という提案は非常に有意義であり、早速地区の社会・国際奉仕委員会で検討する。

地区間の災害時相互支援協定については、すでに石川・富山の 2610 地区ガバナーとは信頼関係があり、すぐに話を進められる。全国への拡大も次のステップとして検討する。

地区活動資金については、支出の詳細な規定づくりを進めたい。

等と大変前向きな反応であり、地区全体で具体的に動いていただけることになりました。

その返事として、私から更に、クラブ間マッチングサイトは「非常時だけでなく、平常時のクラブ活動にも活かせるのではないか」とお伝えしました。

昨今の会員減少による各クラブの奉仕活動にさける資金が減少し、クラブ内予算の中で行える事が限られてきます。地区補助金という手はありますが、クラブ同士が得意分野や資源をシェアできる仕組みがあれば、より前向きに地域課題に挑戦できる、環境整備のようにも思います。と返信しました。

これに対してもガバナーは即答で「社会・国際奉仕委員会にお願いする」と、検討の場につなげていただきました。

以上が今回のやり取りの概要です。

私どものクラブからの提案が、地区全体の仕組みづくりへと発展しつつあることは、横浜旭クラブの誇りであり、またロータリーの可能性を感じさせるものです。

今後、地区の委員会で検討が進む中で、私たちにも協力を求められる場面が出てくるかもしれません。その際はぜひ皆さまのお力添えをお願い申し上げます。

災害はいつどこで起きるか分かりません。しかし備えは「平時にしかできない」ものです。横浜旭クラブとしても引き続き防災を柱に活動を進め、地域に貢献して参りたいと思います。

それでは、本日も有意義で楽しい例会となりますよう、どうぞよろしく願いいたします。

■町の防災事情

中島 徹

津波避難対策について



横浜市では、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の教訓を踏まえ、今後いつ発生するかわからない津波災害から、市民の皆様の安全を確保するため様々な取組を進めています。

津波は、発生をあらかじめ予測することが困難です。普段から避難場所や避難にかかる時間などを確認しておき、地震による大きな揺れや長い揺れを感じた時、若しくは、津波警報等の情報を知った時は、周りに避難を呼びかけながら、「より早く、より高い場所へ避難」してください。そして、津波警報等が解除されるまでは、安全な場所から離れないようお願いします。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saigai/map/tsunami/tsunami.html>

横浜市行政地図情報提供システム | トップ



■ニコニコ BOX

中島 徹／福村さん本日の卓話よろしくお願
いいたします。

関澤 信吾／福村さん本日の卓話よろしくお願
いします。

岡田 隆／福村さん、本日の卓話大変楽しみ
です。

佐藤 真吾／なかなか例会場に来る事が出来ず、
申し訳ありません。福村さんの卓話楽しみです。

北澤 正浩／福村さんの卓話、楽しみにしてお
ります。

目黒 恵一／福村先生本日卓話楽しみです。

福村 正／本日、一般卓話にて自らの地域活
動を振りかえってみます。宜しくお願いします。

新川 尚／福村さん本日の卓話よろしくお願
いします。

安藤 公一／福村先生、本日の卓話よろしくお
願いします。

関口 大樹／福村さん、本日の卓話よろしくお
願いします。

五十嵐 正／福村さん、本日の卓話よろしくお
願いします。

■一般卓話 自らの地域支援活動を振り返る。

福村 正



1、初めに

旭ロータリークラブにお世話になるように
なって足掛け30年になります。入会は岩崎会
長、駒ヶ嶺幹事の年度です。父の急逝に伴い診
療所を引き継ぎ、その翌年になります。

大学の研究室から直接現場に放り出されたよ
うな状況で何の社会性お持ち合わせてない中で
悪戦苦闘の毎日でした。そのような中でのロー
タリー入会でしたので例会に参加するのがやっ
との日々でした。しばらくは何とかついていっ
たのですが諸般の事情により一度離れることと
なりました。医療と介護福祉の仕事もひと段落
ついたころ、予防はもとより病気治療や介護の
対応以前の段階からの介入が必要と痛感させら
れてきました。健康講座や介護予防講座などを
開催することだけで済まされている現状に疑問
がありました。他方で何かしようにも自分が動
けば医療活動とみられてるのではないかとの不
安が付きまといます。ロータリークラブは職業
人としての自分ではなく一人のロータリアンと
して動けますので構えられることもなくかわ
れるのでより身近になれそうなので気分的には
楽です。診療を通して介入の限界を感じるたび
にかつての退会を悔やむようになっていました。

そんな時に戻らないかと声を掛けられ再入会をさせていただきました。

2、地域活動を始める。

喜び勇んで再入会したものの右も左もわからずに日々が過ぎていました。そんなときに東日本大震災が発災しました。斎藤会長、千葉幹事の年度に旭ロータリークラブとしての支援活動の在り方の議論の席上チャリティーコンサートの提案をさせていただきました。「日頃目の見ないことの多いロック少年少女の支援のために本格的なステージを用意して演奏機会や経験を提供。その場で震災の画像を流し災害について考えさせ若い世代や親の世代対しの震災の記憶の風化を防ぐことをロータリークラブの活動として継続していく」即席ではありませんがその場で決まりコロナでの中止を除き年1回の開催で12回を数えています。先年は意義ある業績賞をいただきました。今では学生の間ではロータリーのことは知らなくてもチャリティーコンサートは知られるようになり若い世代へのロータリーの認識の拡大に一役買っています。開催にあたり実務のほとんどは新川会員が担ってくれています。継続させていただいている旭ロータリークラブの皆様には感謝しております。そしてこの活動を通して自分自身も地域へのかかわりが増えていきました。

3、直接的なかかわりへ

チャリティーコンサートの活動と並行して左近山地域での活動の機会が増えていきました。旭区や連合自治会が進めていた地域活性化活動に参画して対象を高齢者だけではなく三世代への支援へ対応の拡大を提案、そのまま地域支援活動拠点としてのNPO法人設立まで議論が進み自治会や商店会、地域住民が中心になり設立までこぎつけました。そのまま皆がボランティアとして現在まで活動が継続しています。NPO



林理事長（中央左）に感謝状が贈られた

法人オールさこんやまでは活動拠点である「ほっと左近山」で平日昼間は食事処として運営されていますが、子供や親世代に対しては毎月第3日曜に開催する遊び場の「日曜ほっと」、なんとか暮らしている高齢者には毎週木曜日におしゃべりサロンの「おしゃべりほっと」、毎月第4日曜に開催される商店街イベントとの合同開催、居住支援している学生が展開してる学習支援活動の「さくら教室」などがあります。これから昨年10周年記念式典の記録映像をお見せします。

いかがでしたでしょうか。これらはいわゆる「顔の見える連携」を基盤とした活動です。全員が当事者です。これが本来あるべき地域活動の姿です。左近山地域は有数の高齢率ではありますが周囲からは地域が盛り上がりつつあるとみられています。がさほど特別なことではないと思います。

4、今後の課題

どこの地域や団体も避けて通れないものに後継者問題があります。これについても考え方を変えれば実は簡単な事なのではないかとの印象です。実際に我々としても取り組んでいる最中です。

そろそろ時間ですのでここで卓話を終了したいと思います。ご清聴ありがとうございました。

■次回例会

9/10 外部卓話 足立佑貴様

（横浜銀行鶴ヶ峰支店課長「家族信託を活用した資産防衛策」

※友の紹介／市川会員